家族農業プロジェクト生産技術向上推進事業

背景

・三重県の水田の６割は、中小規模の家族農業が担っています。
・コロナ禍により、米の需要が減少しています。
・農家が所得を維持するには、品質向上による販売単価の向上や経費の削減が必要です。
・県産米の品質は、夏場の高温による白未熟の発生や大型カメムシによる吸汁被害の増加などにより、１等米比率が低迷しています。
・品質向上対策として、「適切な水管理」や「適正追肥」、「病害虫の適期防除」などのきめ細やかな管理が必要であるが、家族農業経営では粗放的な管理が多い。

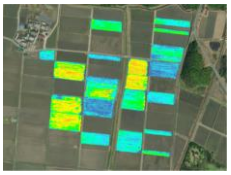
目的

家族農業の継続と県産米の品質向上を目的としています。
スマート農業技術の実装による軽労化を促進しながら、米の品質向上を通じて、農業所得の確保を図ることで、地域農業の一翼を担う小規模な農家の営農継続を促し、本県の農業・農村の基幹である水田農業の持続的な発展につなげます。

取組内容

スマート農機を活用した生産技術体系により、１等米比率向上を図るモデル実証を行う。

①センシング及び施肥管理（７月上旬センシング　７月中旬追肥）
品質低下の主要因である白未熟粒の発生防止には、施肥管理が重要である。しかし、小規模な農家では、緊急の施肥管理が難しい場合もあるため、ドローンを使ったセンシングにより生育診断を行い、施肥管理技術の効果および実用性を確認する。



②ドローン等による地区一斉病害虫防除（７月下旬）
近年は、大型カメムシによる吸汁被害が１等米比率の低下要因となっている。適期防除を精度高く行うには、地区全体で一斉に取組む必要がある。そこで、ドローン等により、地区で一斉病害虫防除を行い効果の検証を行う。

③スマート水管理（５月～８月）
小規模な農家では毎日のこまかな水管理が難しい。水管理の省力化のために、水位センサーと遠隔操作による自動給水栓による水管理の実用性を実証する。